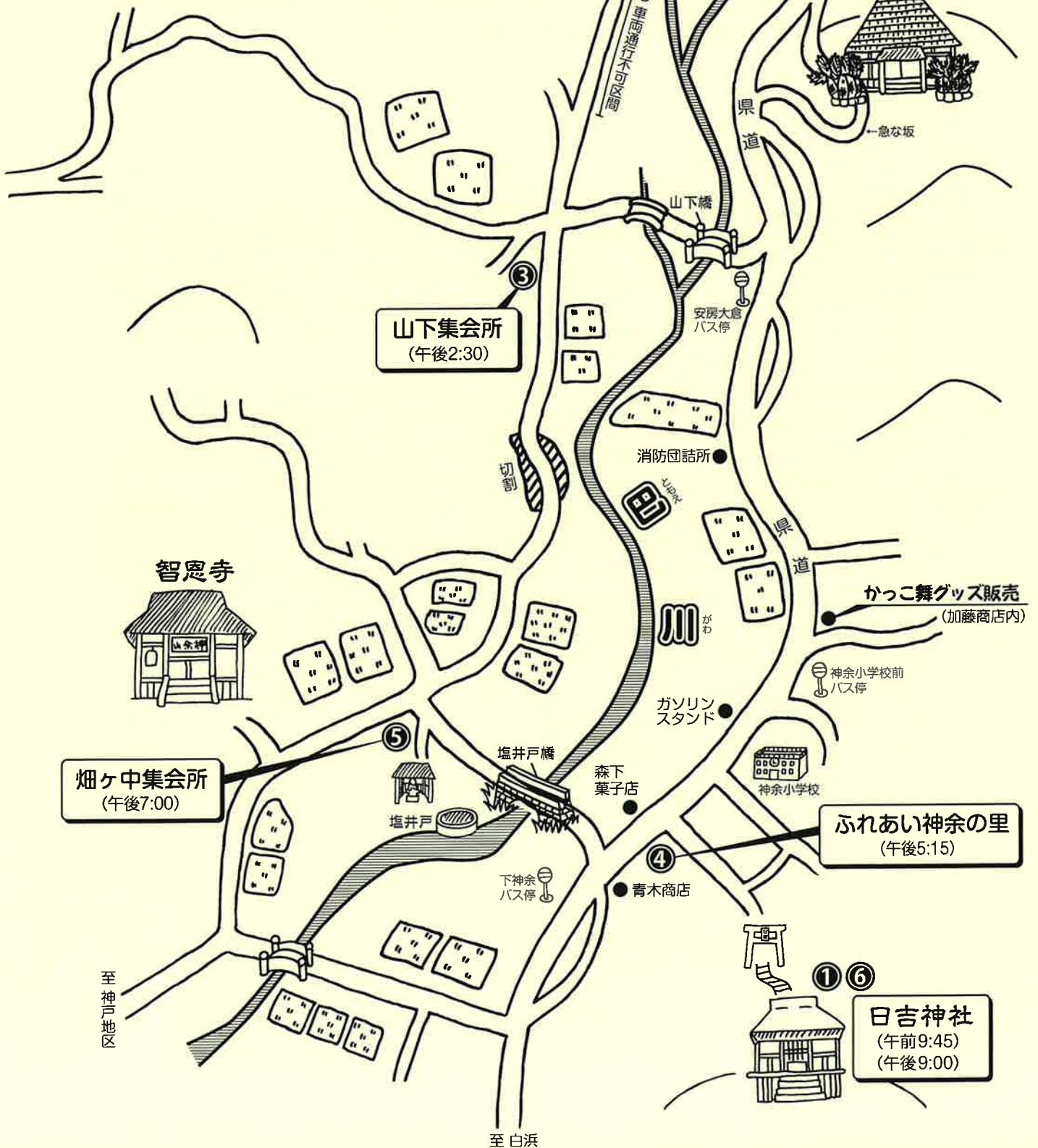


神余日吉神社

令和8年かっこ舞の日程

- | | | |
|----------|------------|----------|
| 7月20日(月) | ① 日吉神社境内 | 午前 9:45 |
| | ② 上・大倉集会所 | 午後 12:00 |
| | ③ 山下集会所 | 午後 2:30 |
| | ④ ふれあい神余の里 | 午後 5:15 |
| | ⑤ 畑ヶ中集会所 | 午後 7:00 |
| | ⑥ 日吉神社境内 | 午後 9:00 |



かなまりひよし

神余日吉神社のかっこ舞

歴史ある神余かっこ舞は、諸先輩方のご尽力により、平成8年に館山市無形民俗文化財の指定を受けました。同時にかっこ舞を保存し、将来に受け継ぐために、保存会を発足させました。

現在では、地区祭礼（7月19・20日）の参加以外にも、かっこ舞体験会や笛の練習会などを定期的に行うなど、神余日吉神社に伝承する民俗芸能かっこ舞の後世への継承・保存のため、積極的に活動しています。

演目紹介

神余には、約250年前から伝わる民俗芸能があります。当時、この地方における祭礼の一大行事で役割は、庭番（世話人）が4人～7人まわり番で役につき、大太鼓世話人・幟持ち・笛師・踊り手・太鼓担ぎ等であった。生活程度の低い家は太鼓担ぎを割り当てられ、この役に割り当てられた人は、来年こそ太鼓担ぎをしなくてすむようにと、一生懸命1年間農業に精を出して働いた。封建時代らしい編成のしかたである。

神余のかっこ舞は、3人が獅子頭を頭に、腹には太鼓（かっこ）をつけ、これを打って踊るもので「風流の獅子」とも言われている。むかし神余は米がたくさん取れたが、日照りが続いたため、米があまり取れなくなったので、雨を神に祈り、五穀豊穡を願ってかっこ舞を踊るようになったと言われている。

以前は、みのこ踊りやシデ棒と組み合わせ、7月19・20日の日吉神社例祭の祭り行事を盛り上げてきた。今はかっこ舞だけが残っている。それも時代の流れの中で、幾度となく中断されたが、昭和49年高校生の自主団体「あすなろ会」の手によって復活し、今日の伝承を不動のものにしてくれました。

獅子は、雄2匹（親獅子、中獅子）と雌1匹（雌獅子）で、途中雌獅子が逃げ出し雄2匹で雌を奪い合う場面もあるが、最後には仲直りする。

演目は、大注連張り・踊り込み・中獅子舞・親獅子舞・三匹舞・きり舞・二匹舞・三匹舞の8部から構成されている。

また、花笠をかぶり、ささらを鳴らす4名（女子）も踊りに加わる。ささらの音はかえるの鳴き声や、風で揺れる竹の音を表し、花笠から垂れる五色の紙は雨だれを表しているといわれている。他に大太鼓1名、注連縄持ち2名、笛師数名によって行われている。

祭礼当日は、日吉神社境内や地区内数ヶ所で踊りを披露する。

神余かっこ舞保存会